

学校図書館における 読書バリアフリーの推進に向けて

専修大学文学部
野口 武悟

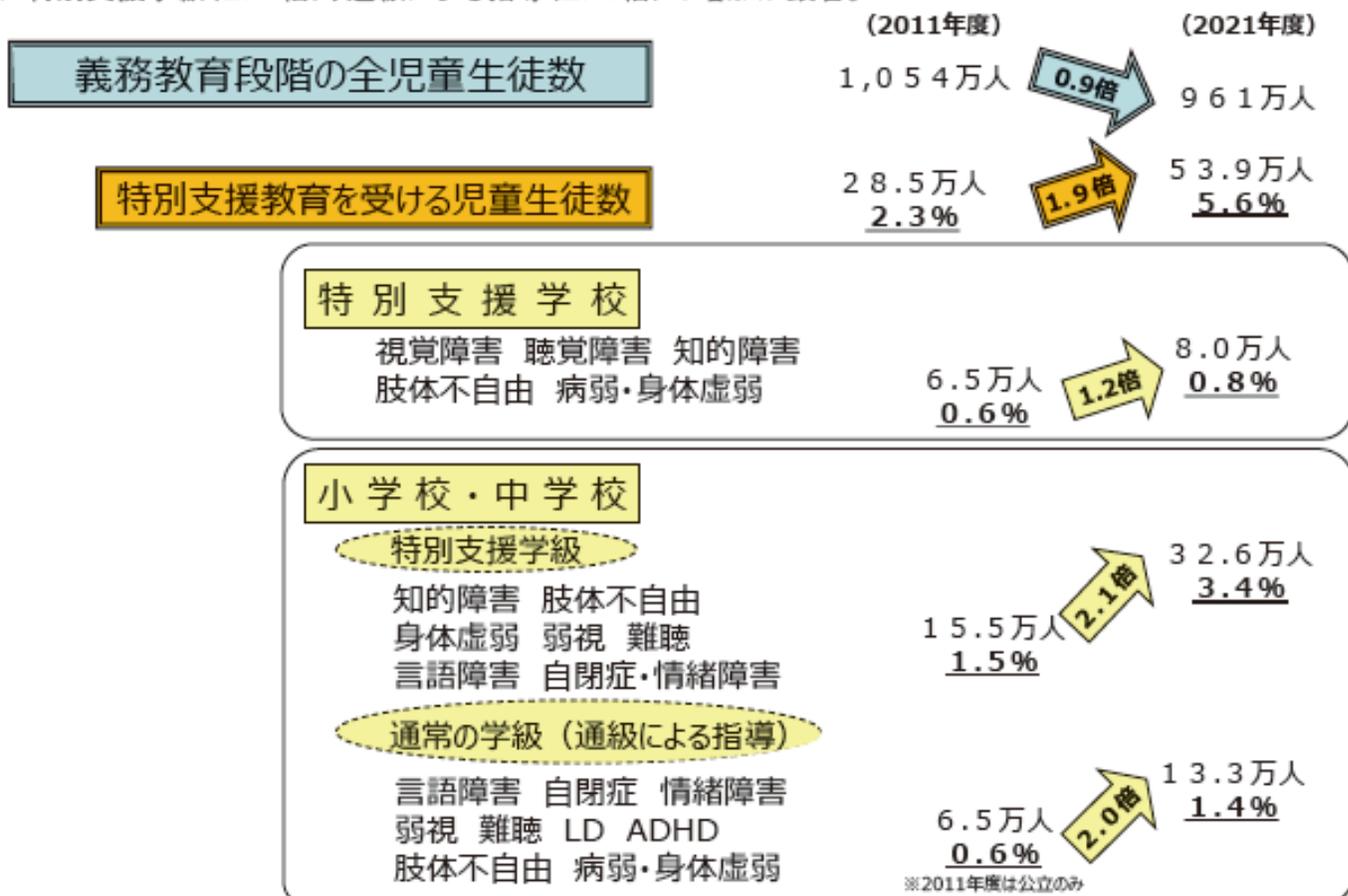
1. 障害のある児童生徒の現状

特別支援学校等の児童生徒の増加の状況(2011→2021)



(各年度の数は5月1日現在)

- 直近10年間で義務教育段階の児童生徒数は1割減少する一方で、特別支援教育を受ける児童生徒数はほぼ倍増。
- 特に特別支援学級(2.1倍)、通級による指導(2.0倍)の増加が顕著。



※通級による指導を受ける児童生徒数は、2019年5月1日現在の数(出典:通級による指導実施状況に関する調査)。その他は2021年5月1日現在の数(出典:学校基本統計)。

内閣府『令和4年度
障害者白書』,
2022年

文部科学省通知「**学校図書館ガイドライン**」（2016年11月）

発達障害を含む障害のある児童生徒や日本語能力に応じた支援を必要とする児童生徒の自立や社会参画に向けた主体的な取組を支援する観点から、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた様々な形態の図書館資料を充実するよう努めることが望ましい。例えば、**点字図書、音声図書、拡大文字図書、Lしブック、マルチメディアデイジー図書、外国語による図書、読書補助具、拡大読書器、電子図書等の整備も有効**である。

2. 学校図書館における読書バリアフリーの現状と課題

(1) 小学校・中学校・高等学校の学校図書館における読書バリアフリー環境の整備・充実

(2) 特別支援学校における学校図書館の整備・充実

(3) 司書教諭・学校司書の養成・研修における読書バリアフリーに関する内容の拡充

**(1) 小学校・中学校・高等学校の学校図書館における
読書バリアフリー環境の整備・充実**

⇒特に、バリアフリー資料の不足をどうするか

(2) 特別支援学校における学校図書館の整備・充実

**(3) 司書教諭・学校司書の養成・研修における読書バ
リアフリーに関する内容の拡充**

・バリアフリー資料の整備状況

	点字図書	拡大文字図書	録音図書	マルチメディア アデージー図 書	LLブック
小学校	42.5%	15.5%	5.2%	1.3%	6.2%
中学校	19.6%	16.5%	5.7%	1.0%	4.0%
高等学校	12.3%	8.7%	10.9%	0.6%	2.2%

文部科学省「令和2年度学校図書館の現状に関する調査」、2021年公表

LLブック

※「やさしい日本語」で読みやすく作られた本。本文の意味理解を助けるためにピクトグラムが添えられている作品が多い。



ゲームセンターに 遊びました。
「光司、勝負しようか」。
1人、2人、3人。
行けば、たくさんの 友だちがいます。
友だちといっしょに レースゲームを しました。



ゲームセンターには 2時間でも 3時間でも います。
「調子は どうかのよ」。
また 友だちが 声をかけてきました。



・バリアフリー資料の類型

「特定書籍・電子書籍」

・ ・ ・ 著作権法第37条第3項の規定により学校図書館や公共図書館等で複製

↳ 録音図書（音声デイジー）、マルチメディアデイジーなど

「書籍・電子書籍」

・ ・ ・ 出版社により出版され、市販

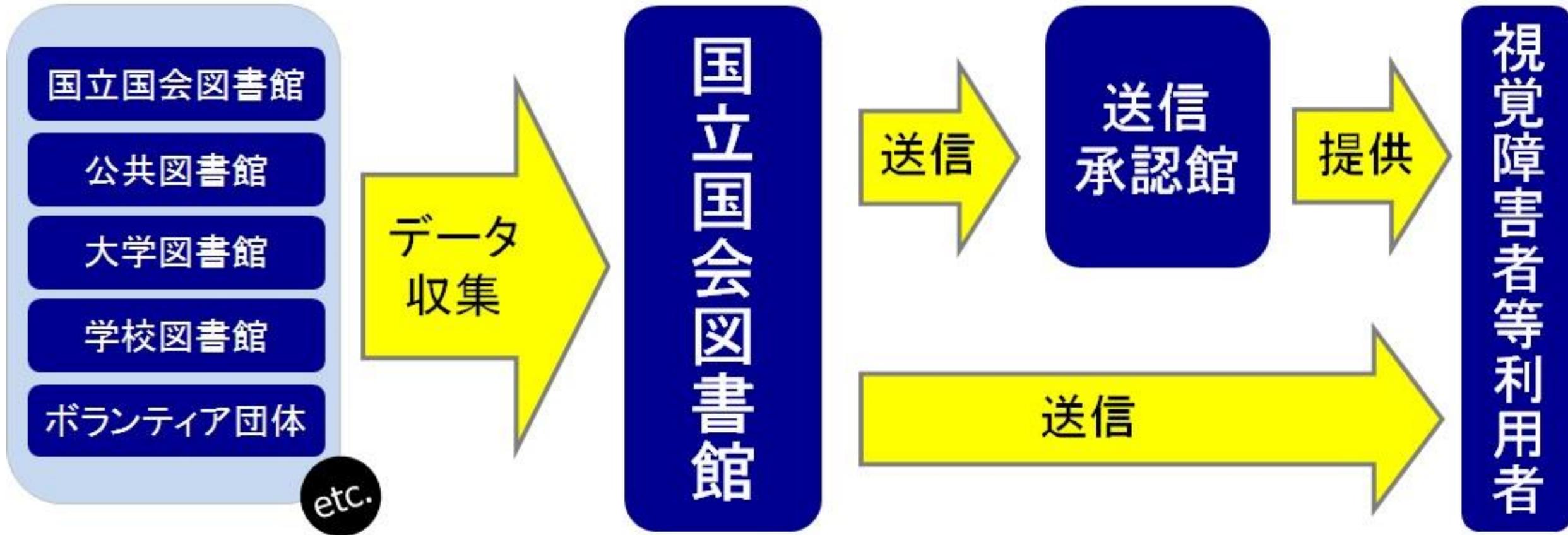
↳ 大活字本、LLブックなど

• 既存の「特定書籍・電子書籍」を「共有」する仕組みの周知と活用促進

→全国規模での「共有」の仕組みはあるものの、低い認知度

- ▶ 「サピエ図書館」（全国視覚障害者情報提供施設協会）
- ▶ 「視覚障害者等用データの収集および送信サービス」
（国立国会図書館）
- ▶ 「学校図書館等における読書バリアフリーコンソーシアム」
（文部科学省）

※ 「視覚障害者等用データの収集および送信サービス」の仕組み



国立国会図書館のウェブサイト

※ 「学校図書館等における読書バリアフリーコンソーシアム」



- 複製・翻案・提供
- 事例で学ぶ
- よくある質問



＼進めよう、豊かな読書活動／

学校図書館等における読書バリアフリーコンソーシアム

学校や図書館で働くみなさ～ん! 著作権法第37条により、**視覚障害や肢体不自由、発達障害や学習障害等、読むことに困難のある方々** へ、**著作物の複製・譲渡・公衆送信** が可能となりました!

※詳しくはウェブサイト (<https://accessreading.org/conso>) 参照

- **市販のバリアフリー資料（特に子ども向け作品）の出版促進への期待**

(1) 小学校・中学校・高等学校の学校図書館における
読書バリアフリー環境の整備・充実

(2) 特別支援学校における学校図書館の整備・充実
⇒特に、職員（学校司書）配置、予算、図書資料

(3) 司書教諭・学校司書の養成・研修における読書バ
リアフリーに関する内容の拡充

・学校図書館の設置状況

調査年	設置率
2007年	89.1%
2013年	87.6%
2019年	91.0%

視覚障害特別支援学校 100%
知的障害特別支援学校 85.6%
未設置理由として、
教室不足が最多

全国学校図書館協議会と専修大学文学部野口研究室の共同調査「特別支援学校図書館の現状に関する調査」, 2007年・2013年・2019年 (以下, この項のデータは同調査による)

- 担当職員の配置状況

調査年	司書教諭	学校司書
2007年	54.2%	10.1%
2013年	57.5%	13.3%
2019年	58.3%	20.0%

学校司書の配置率は、小・中・高校と約50%の差

• 学校図書館予算の状況

調査年	予算額
2007年	22.6万円
2013年	16.8万円
2019年	19.4万円

年間予算0円という学校も8.2%

(参考)

小学校	52.6万円
中学校	62.7万円
公立高校	115万円

- 学校図書館の所蔵資料の状況

調査年	資料総数
2007年	4,474
2013年	4,342
2019年	4,928

視覚障害特別支援学校 12,328
知的障害特別支援学校 2,815

(参考)
小学校 10,335
中学校 11,579
高等学校 27,204

- うち、バリアフリー資料の割合（2019年度，視覚障害特別支援学校の場合）

資料総数の3割程度

墨字	点字	録音	拡大文字
7,769	2,420	602	385

(参考) 文部科学省「学校図書館図書標準」達成状況

特別支援学校（小学部）：15.5%

特別支援学校（中学部）：3.6%

小学校：71.2%

中学校：61.1%

文部科学省「令和2年度学校図書館の現状に関する調査」、2021年公表

・公共図書館・点字図書館等との連携の状況

【主な連携先】

	全体	視覚	聴覚	肢体	病弱	知的	総合
公共図書館	42.1%	53.8%	60.0%	62.1%	42.1%	31.3%	41.5%
点字図書館	5.4%	63.5%	0%	0%	0%	0.3%	2.5%
聴覚障害者情報提供施設	1.8%	1.9%	13.8%	0%	0%	0.3%	0.8%
特別支援学校図書館	6.9%	15.4%	6.2%	8.0%	2.6%	4.4%	11.0%
小・中・高校図書館	7.2%	15.4%	7.7%	12.6%	7.9%	3.8%	8.5%
連携なし	48.6%	23.1%	30.8%	27.6%	55.3%	60.8%	50.0%

**(1) 小学校・中学校・高等学校の学校図書館における
読書バリアフリー環境の整備・充実**

(2) 特別支援学校における学校図書館の整備・充実

**(3) 司書教諭・学校司書の養成・研修における読書バ
リアフリーに関する内容の拡充**

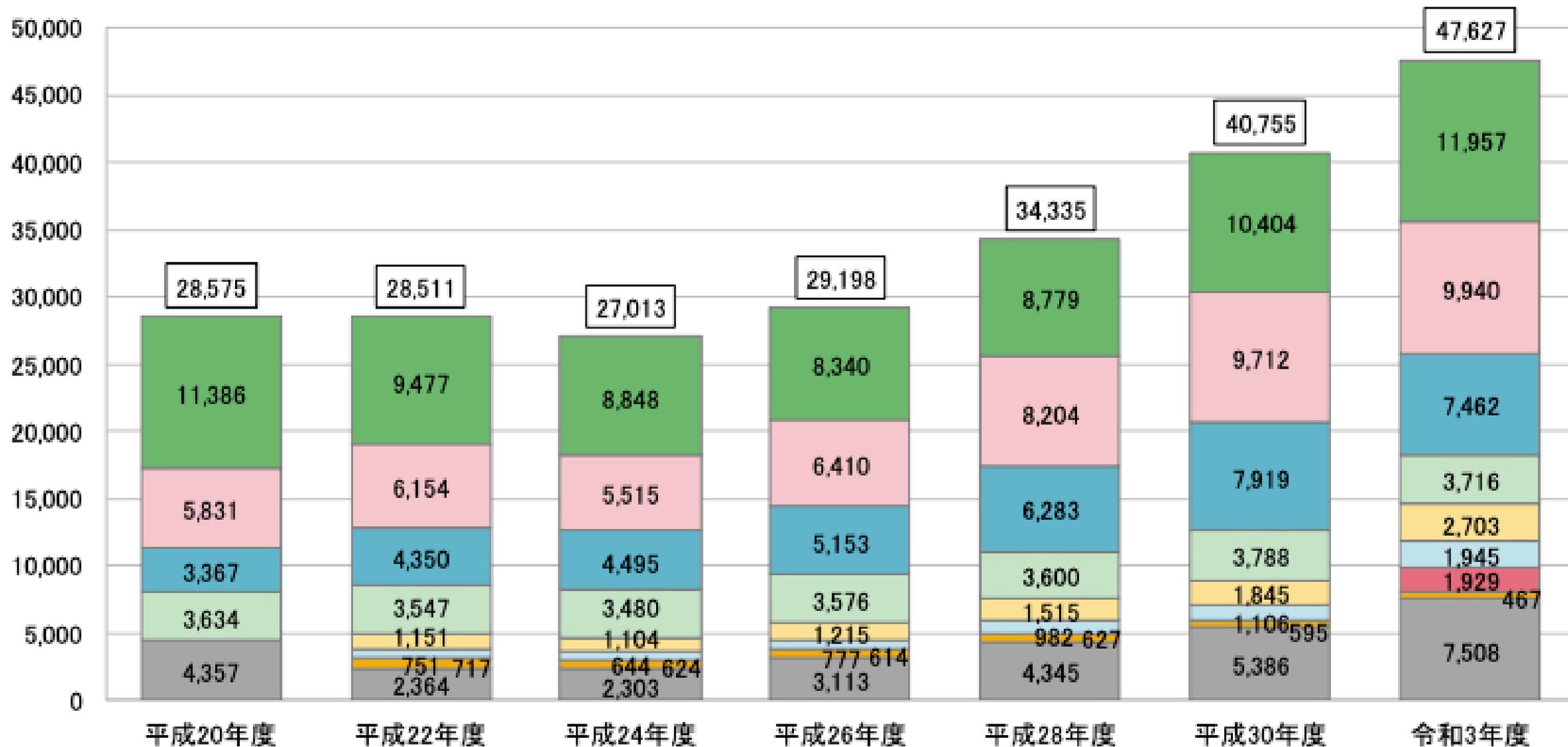
⇒ 司書教諭、学校司書の養成科目の改善（「読書バ
リアフリー論」の設置など）

⇒ 教育委員会による研修体制・内容の改善

3. 読書から「誰一人取り残さない」ために

- 「読書バリアフリー法」が対象としていない**日本語**
指導が必要な児童生徒への対応も急務

□合計
 ■ポルトガル語
 ■中国語
 ■フィリピン語
 ■スペイン語
 ■ベトナム語
 ■英語
 ■日本語
 ■韓国・朝鮮語
 ■その他の言語



文部科学省「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査結果の概要（速報）」，2022年公表

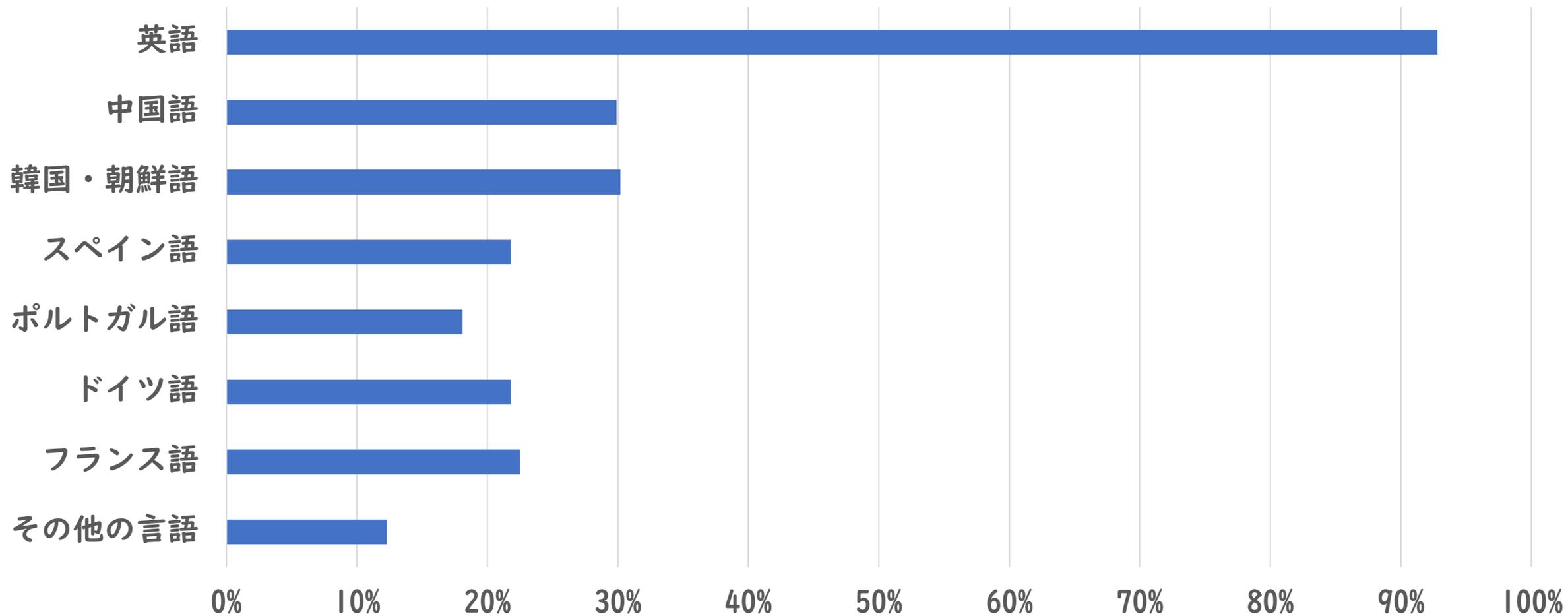
・学校図書館における外国語図書の整備状況

- ▶ 小学校 67.0%
- ▶ 中学校 69.7%
- ▶ 高等学校 66.1%
- ▶ 特別支援学校（高等部） 21.8%

文部科学省「令和2年度学校図書館の現状に関する調査」、2021年公表

※英語の図書資料が中心と思われ、母語での読書環境が整備されているとは言い難い。

【参考】公共図書館における外国語図書（児童書）の言語別所蔵状況



日本図書館協会多文化サービス委員会 『多文化サービス実態調査2015報告書』，2017年公表

•SDGsで謳われた「誰一人取り残さない」

⇒その目標の1つに「質の高い教育をみんなに」

⇒すべての人々の教育、もっといえば生きることの基盤には読書がある

•「誰一人取り残さない」は読書にも、いや読書にこそ重要

⇒「読書バリアフリー法」の目的、基本理念等を確認し、読書から「誰一人取り残さない」学校図書館に向けて、できることから取り組みを進めていきたい

ご静聴ありがとうございました